

第15回スポーツ・ボランティア・リレートーク レポート

2012年7月3日（火） 19時より21時

仙台市青葉中央市民センター 第3会議室

参加者 16名

地域とスポーツ ～

せんだいの「する・みる・ささえる」の今とこれから

仙台市文化スポーツ部 スポーツ振興課 清水 義明氏

こんばんは、スポーツ振興課長の清水ともうします。皆様にはいろいろなスポーツシーンでお世話になっていますし、このような場をもうけていただき大変光栄です。お手元に資料を用意しました。本日は大きく分けて4つの話しをさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



【仙台市民のスポーツに関する意識調査の結果から】

最初は資料の「スポーツに関する意識調査（抜粋版）」の結果についてご報告したいと思います。私はスポーツ振興課で8年を迎えました。ご承知のように仙台市のスポーツ行政の計画については現在新たに作っているところですが、これまでは大きくいえば「する」「みる」「ささえる」というキーワードに基づき取り組んできたところでした。

ちょうどこの計画が平成22年度でおわるものであったため現在新たに作成しているわけですが、最終の年度にあたり仙台市民の意識調査を実施しました。調査は3,000名を区ごとにわりふって対象者を抽出し実施したものです。結果として各区から合計1,317名（43.9%）の回答がありました。本日はその中からテーマに関連する項目を抜粋してお持ちしました。

運動やスポーツを「する」ことについて、おおむね好きという回答が約6割となっています。これは平成20年に対比すると約10%ほど増加しています。次に運動やスポーツを「見る」ことについては、約7割が好きとなって回答しています。これも平成20年に

比較し、約10%増加しています。関連して一年間のスポーツ活動状況についての質問に対する回答では若い層での増加がみられ、週一回以上運動している人は36.4%と着実に増加しているところです。これからというところでは、一年間スポーツをしていないという人の割合を今よりも約4割を減らすことに取り組むたいと考えています。

スポーツをする目的についての質問では、健康や体力の維持増進が一番で、逆にスポーツを行わなかった理由では時間がないがトップでした。一年間に行ったスポーツはなんですか、という質問では第一位がウォーキング、次いで散歩となっていて、この回答はいつでもどこでも一人で気軽にできるものということで、非常にわかりやすい結果といえます。反面、チームメイトなどがいないとできないものは少なくなっているのが実情です。



次に「支える」スポーツということで、スポーツボランティア活動への参加状況に対する質問では、参加率は全体の5.5%と一割に満たないのが実態です。平成20年度との比較でも残念ながら若干下がっています。

参加した方にどのようなスポーツに参加したかについて質問したところ、43%が大会・イベントの運営の手伝いとなっており、次にスポーツの指

導・コーチとなっています。この質問では回答例が物足りないのではないかとこの声もいただいております、たとえば地域の小学校での運動会の手伝いをしたなどの活動も本来は含まれるべきではなかったかと考えられますので、聞き方については課題をいただいております。

この一年間にスポーツボランティア活動をしている人のおおよその回数についての質問では、年に1~2回が40.3%、週に1~2回が22.2%となっています。スポーツを行った理由としては、健康維持のためがトップでした。スポーツボランティアへの参加意向では、今後参加したいと思うが16.3%となっていて、参加してみたい内容としては約7割が「大会・イベント運営の手伝い」となっています。

この一年間にスポーツ観戦をしたことがあるは46.2%と約半数になっており、実際にはみたものとしては楽天イーグルスの36.8%、ついでベガルタ13.8%となっています。これから観戦したいものでも野球・サッカー、マラソン・駅伝の順となっていました。この結果では10年ほどで新たに増えたプロスポーツや、新たに開催されている駅

伝などがそれなりに効果を上げていると感じています。スポーツ推進計画ではこうしたアンケートの結果を随分参考にして作成してまいりました。



【仙台市スポーツ推進計画（中間案）について】

ここからは仙台市スポーツ推進計画（中間案）について説明させていただきます。まずもともとは通称「仙台元気プラン」・「仙台市スポーツ振興中期計画」がありました。これを引き継ぐ「仙台市スポーツ推進計画」の趣旨として、計画の期間は10年間を見通し作成するものですが5年経過後に見直す予定となっています。そして、基本目標としてこれまでの「する」「みる」「ささえる」に「ひろがる」を加えて作成することを考えております。

「ささえる」については「ボランティア活動をやりたい」というニーズを踏まえてボランティアの育成を考えています。「ひろがる」スポーツでは、幼児期からスポーツに触れ合う機会を作ることを考えており、スポーツの効果のひとつとして、経済的効果として大きなイベントがあることで県外からこられる方が増えることがわかっておりますので、全国規模の大会の誘致などを考えています。

こうした取り組みについて具体的な6つの目標を設定しています。この（1）から（6）についての計画については市民から意見をいただくパブリックコメントを実施しており 7

月いっぱいいただき、9月中には最終計画をまとめる予定になっています。

<参考／6つの目標>

- (1) 15歳以上の市民のうち、50.0%が週1回以上運動やスポーツを行うことを目指します。
- (2) 15歳以上の市民のうち、40.0%が市や地域スポーツ団体などが主催するスポーツ行事に参加することを目指します。
- (3) 15歳以上の市民のうち、60.0%が年1回以上競技場でスポーツ観戦することを目指します。
- (4) 15歳以上の市民のうち、10.0%がスポーツボランティアなどの協力活動を体験できる環境づくりを目指します。
- (5) 仙台市立小学校の児童(5年生)のうち、60.0%が週3回以上運動やスポーツを行うことを目指します。
- (6) スポーツの全国大会並びに国際大会を、年8回以上開催することを目指します。

今後取り組む具体的なイメージについてポイントで説明しますと、「する」では各区にランニングコースを身近な施設として整備すること、また、大規模スポーツ施設として、民間のゼビオアリーナの完成や、スケートリンク、50mプールなどが現在はないという事実があり対応を考える必要があると思います。また、民間のスポーツ施設や企業チーム、プロスポーツチームなどと連携することも必要と考えています。

「みる」スポーツでは、大規模なスポーツ大会の誘致・開催を検討することとしています。仙台に本拠をおくプロスポーツの支援として観客が入り、だれもが楽しんでいける環境を作ることも大切です。

「ささえる」スポーツでは、気軽に参加できる「ちょこっと」できるボランティアを推進し関わる方を増やしたいと考えています。次にスポーツにおける企業・大学との連携についても、さまざまなシステムを考えていきたいと考えているところです。

「ひろがる」スポーツでは、日本一を決めるアマチュアスポーツの大会の誘致をすすめたいと思います。そのためさいたまなどですでに立ち上がっている「スポーツコミッション」の設立を検討していくことを考えています。また、観光庁がちからを入れているものとして、スポーツと観光を組み合わせたスポーツツーリズムがあり、仙台市としてもモデル事業などを実施したいと考えています。こうした中で大規模なイベントの誘致に際しては、宮城県をはじめ広域の近隣市町村との連携も考え行きたいところです。



【仙台のスポーツについて】

3つめのお話しですが、仙台を拠点しているプロスポーツについてお話ししたいと思います。仙台の場合、各プロスポーツにはそれを支援する組織があります。サッカー・野球・バスケット、ひとつのプロスポーツにひとつの支援組織があるのですが、それをまとまりにして様々なことを連携してやりプロスポーツ全体を盛り上げるということで、「仙台プロスポーツネット」というものを立ち上げました。その後、バレーボールの仙台ベルフィーユが誕生し先般「仙台ベルフィーユサポート協議会」が発足しているところです。プロスポーツがもたらすさまざまな効果ということで、経済的な効果があります。調べてみると楽天138億円、ベガルタ25億円、仙台89ERSは5.4億円といわれ、全体では約150万人の観客動員となっています。

その他のトピックスということで、今年のイベントについて報告すると、仙台国際ハーフマラソンがありまして、実際に走った方はハーフマラソンでは9,212人もおりましたし、沿道の観客は約6.5万人くらい、視聴率は東北放送は23%くらいだっています。この際に関連して実施したエキスポというものが、二日間で約2.2万人、当日は1.5万人の観客があったことなど本当に規模の大きなものになりました。マラソンをきっかけにいらっしゃる方にもっと楽しんでいただきたいと来年以降に向けて考えているところです。ラグビーでは3月25日にジャパンオールスターゲームがあり、さらにサッカー女子のなでしこジャパンのゲーム、8月19日・22日・27日はU20の女子W杯のゲームが利府町の宮城スタジアムで開催されます。10月28日には恒例の大学女子駅伝、9月29日・30日には泉ヶ岳アウトドアフェスティバルが、11月3日には仙台リレーマラソン、12月7日から9日にはスポーツマネジメント学会が、そして、12月16日には日本実業団対抗女子駅伝競走大会が予定されています。

最後ですが、ボランティアに関連してハーフマラソンに参加したボランティアに対し、アンケートを実施し、継続的に活動したいかという質問をしており、継続的なボランティアのための仕組みを検討していきたいと思っています。

本日はご清聴ありがとうございました。